

<p>26日 (日) マタイ 26章</p>	<p>『父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。』(39節)。私たちはいつも、何を祈るのが問われる。苦難を避ける事、願いを叶えることだけが祈りの目的ではない。何よりもまず神の御心が実現することを祈り求めたい。</p>
<p>27日 (月) マタイ 27章</p>	<p>「イエスは大声で叫ばれた。『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』、これは、『わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」(46節)。絶望と苦難を負いながら死んでいくイエス。しかし、そこにも神が共におられたという恵みが示される。苦難の中にある仲間こそ、神が共にいることを覚えて。</p>
<p>28日 (火) マタイ 28章</p>	<p>「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(20節)。「その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は『神は我々と共におられる』という意味である(1章23節)」マタイ1章～28章までインマヌエルという言葉が全体を貫く。復活の主が「いつも・私たちと・共に」おられることを信頼して。</p>
<p>29日 (水) マルコ 1章</p>	<p>「イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。」(17-18節)。イエスの呼び掛けに二人の漁師はこれまでの人生の象徴であった網を捨てて、“すぐに”従った。私たちも主から同じ呼びかけを受けている。私たちは何を捨てて、いつ従うのだろうか？</p>

<p>30日 (木)</p> <p>マルコ 2章</p>	<p>「だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはいしない…新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」(22節)。私たちは神様から新しいぶどう酒であるイエス・キリストの福音をいただいた。その福音は私たちに今までの古い革袋・生き方に留めない。新しい革袋・新しい生き方に私たちを押し出す。</p>
<p>31日 (金)</p> <p>マルコ 3章</p>	<p>「イエスは手の萎えた人に、『真ん中に立ちなさい』と言われた。」(3節)。社会で「周縁」に追いやられていた人を「真ん中」に立たせるイエス。私たちの社会にも無視され、忘れられ、周縁化されている人々や地域がある。私たちはイエスがしたように、彼らを真ん中にして、事柄を考え、連帯し、祈りたい。</p>
<p>9月1日 (土)</p> <p>マルコ 4章</p>	<p>「イエスは、『向こう岸に渡ろう』と弟子たちに言われた。」(35節)。イエスは人々に出会うために、自ら向こう岸に渡る、隣人と出会う旅に出かけるお方。私たちからではなく、イエスの方から、私たちに会いに来てくださる恵み。だからこそ私たちも、隣人と出会うために、私たちの側から出かけてゆきたい。</p>
<p>2日 (日)</p> <p>マルコ 5章</p>	<p>「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」(19節)。イエスは私たちを、私たち自身がいた場所に派遣する。そしてその場所で神の憐みと御業を証しするように促されている。それぞれが派遣される家庭、職場、学校、地域を覚えて。</p>